

テーマ	部会でのご意見	対応の方向	想定される取組
食文化と食産業との区別	<ul style="list-style-type: none"> ● 他の地域に比べてアドバンテージのある食を重点的な取組に掲げたのは、将来性が感じられるのでとても良い選択だと思う。ただ、「食品産業」と言っても良いところを「食文化産業」としており、こだわりがあるようにも見受けられるが、それが文面からは伝わってこない。（川崎委員） ● 食文化とすると文化をつくることにウェイトが置かれ、食産業ではなくなってしまうのではないだろうか。食文化と食産業ではイメージすべき姿が異なるので、その辺りはしっかりと区別する必要がある。（内田委員） ● 食の文化という表現には抵抗感がある。もう少し全体にシンプルに考えた方が良い。食産業、観光産業と言ってしまって、そこからいろいろ展開させていく方が良い。（池田委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略Ⅱ（経済）1-①「食の魅力を活かした産業の高度化」において、食分野の産業が他分野との産業と融合することにより、新たな付加価値を生み、道外需要に対する販路拡大に繋がることを記載。 ● 重点戦略Ⅱ（経済）1-①「食の魅力を活かした産業の高度化」において、「食文化産業」を「食分野の産業」に変更 	<ul style="list-style-type: none"> ● フード特区を活用した食関連企業の誘致 ● フード特区を活用した6次産業化、機能性食品の研究開発、輸出支援 ● 国際的なイベントや観光客誘致活動と連携した販路拡大
規制緩和の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ● まちづくり戦略ビジョンを策定するにあたって、規制緩和の項目を加えておかないと、結局規制によって実行できないという事態に陥る恐れがある。（池田委員） ● 「規制があるからできない」ではなく、「規制があってもやりたい」という意思がなければいけない。（内田委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略Ⅱ（経済）1-①「食の魅力を活かした産業の高度化」においてフード特区の活用、2-②「創造性を活かしたイノベーションの誘発」における札幌コンテンツ特区の活用を想定。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特区制度の積極的な活用（フード特区、札幌コンテンツ特区）
観光を通していろいろなものが生まれる観光創造	<ul style="list-style-type: none"> ● 「集客交流産業」とあるが、集客の時代ではない。観光は札幌経済・雇用も促進させる、それ以上に、人が交わることにより札幌の人々が豊かになり、新たな文化を生み出していくという観光創造、観光を通していろいろなものが生み出されていくようにしなければならない。（石森委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略Ⅱ（経済）1-②「魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」において、「集客交流産業」の記載を「観光消費による経済循環の活性化」に変更。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域連携による北海道観光の誘致 ● 国際的なイベントの開催 ● 札幌らしい新たな観光資源の創出 ● アジアへの戦略的な観光客誘致
技術の再評価と発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 文中の様々な箇所に「技術」とあるが、サービス産業における技術やノウハウ、既存企業が苦労して培ってきた技術を行政がきちんと捉えて発信していく必要がある。大学が関わったものだけが「技術」としてはいけない。（内田委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略Ⅱ（経済）2-①「国際経済戦略の積極展開」において、「マーケティング活動の促進」として企業の持つ製品や技術を捉えることを記載。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際経済戦略の検討 ● マーケティング活動の促進 ● MICE 誘致の強化
「創造」という言葉の使い方の整理と、全てに係る「創造的なジャンルの産業」	<ul style="list-style-type: none"> ● 「創造」はキーワードになる。ただ、「札幌型創造産業」は、全ての分野に関わってくる。また、食、環境、観光、健康・福祉の4分野と同様に創造分野入っているが、別のコンセプトに置き換えないと混乱を招いてしまうだろう。ともすれば、コンテンツ特区と勘違いされるかもしれないので、「創造」という言葉の使い方には整理が必要ではないかと思う。（石森委員） ● 「札幌型創造産業」の扱いに違和感がある。困ってここに入れたのかと思う。コンテンツ産業を含めた創造的なジャンルの産業は、全てのジャンルに通底していくものだと思う。食、観光、健康・福祉、環境の全ての分野に創造的なコンテンツやデザインなどの札幌ならではの産業が串刺しになっているイメージだとわかりやすい。（早川委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「創造性」を重点分野全体にかかるキーワードとして記載。 ● 重点戦略Ⅱ（経済）2-②「創造性を活かしたイノベーションの誘発」において、創造産業はすべての産業に係る横断的な分野として記載。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 札幌がこれまで培ってきたIT、バイオ、コンテンツ産業と既存産業の結び付け ● 札幌コンテンツ特区の活用 ● ソーシャルビジネスの事業力強化を支援

テーマ	部会でのご意見	対応の方向	想定される取組
インキュベーションのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成に関して、行政はどのような関わり方ができるだろうか。インターンシップやインキュベーション分野で様々な施策が実施されてきたが、あまり上手く進んでいるようには思えない。（早川委員） ● 各基盤強化において、インキュベーションの記載の狙いがはっきりしてない。（川崎委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略Ⅱ（経済）2-②「創造性を活かしたイノベーションの誘発」において、創造的なものづくりにチャレンジするベンチャー企業や起業家を生み育てることを記載。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 創業資金等の支援 ● ソーシャルビジネスの事業力強化を支援【再掲】
産業政策の基本的な考え方としての「広域連携」の打ち出し	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光分野をやっていて、札幌市は自分のところが良ければ良いということではなく、周辺地域との連携は必要である。そうするとインフラの整備もなるほどということになる。（石森委員） ● 札幌市としても、今後は周辺地域との連携ということを産業政策の基本的な考え方として、もっと前の方で前面に押し出した方が良いのではないだろうか。アクセス強化についてもう少し具体的なイメージを議論する必要がある。（為定委員） ● 広域的な発想が必要な時代になってきていると思う。コンパクトシティで内向きなるのはよくない。（内田委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略Ⅱ（経済）リード文において、札幌をはじめとした広域経済圏による国際競争力の強化を図ることを記載。 ● 重点戦略Ⅱ（経済）2-③「広域連携ネットワークの強化と投資環境の充実」において、広域経済圏の主要な空港や港湾などの交通ネットワークを強化することを記載。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道内の主な空港、港湾等とのアクセス環境の整備 ● フード特区を活用した広域連携による食分野の振興 ● 広域連携による観光分野の振興
創造的な人材づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 食や観光の分野を掲げるなかで、札幌市立大学をはじめとした高等教育機関でどのような人材を育成しようとしているのかピンとこない。（石森委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略Ⅱ（経済）3-①「将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用」において、幼い頃から創造性豊かな人材を育成することを記載。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの多様な就業体験の提供 ● 文化芸術に触れ創造性を育む ● 札幌ものづくり人材の育成
ワークライフバランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークライフバランスは女性だけではない。こういう表現はしない方が良い。むしろ男性が子育てや介護などを行うことで、女性が働きやすくなるということが活性化に繋がる。（内田委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略Ⅱ（経済）3-②「市民の潜在的な力の活用」において、子育てなどと仕事を両立できるようワークライフバランスを推進することを記載。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育所整備、事業所内保育施設の設置促進 ● 女性の就業や起業を支えるサポート
インターンシップ強化の是非	<ul style="list-style-type: none"> ● インターンシップの強化が柱になるかは疑問に思う。③「社会的インターンシップの強化」は①「創造的なものづくりを担う人材の育成」にラップすると思う。③はインターンシップの強化というよりも、地域のリーダーを育てる意味合いの方が良いと必要である。（池田委員） ● 人材育成に関して、行政はどのような関わり方ができるだろうか。インターンシップやインキュベーション分野で様々な施策が実施されてきたが、あまり上手く進んでいるようには思えない。（早川委員）【再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略Ⅱ（経済）3-③「社会的インターンシップの強化」を3-①「将来を担う創造性豊かな人材の育成」に統合し、幼い頃からの就業体験や留学経験などの教育プログラムの充実を記載。 ● 重点戦略Ⅰ（地域）3-④「地域活動を支える人づくり」で記載。 	
スマートシティ実現に向けた産業政策	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートシティという考え方を長期的に組み込むタイミングは今しかないと思うが、環境部会のメインの分野となるエネルギーだけではなく、情報通信ネットワークの整備による行政サービスや健康・福祉の高度化なども含めてスマートシティであり、これを実現のための産業政策を盛り込んでいく必要がある。（為定委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略Ⅱ（経済）1-③「超高齢社会に対応した健康・福祉産業の振興」で健康・福祉サービスにおける施策を検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 札幌がこれまで培ってきたIT、バイオ、コンテンツ産業と健康・福祉サービス業との結び付け

テーマ	部会でのご意見	対応の方向	想定される取組
コンパクトシティに対応したまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトシティのイメージは、高齢化社会の中で住みやすい空間を創るための集約化だ。必ずしも札幌全体が小さくなるのではなく、札幌のような大都市の場合は、中心部に一極集中している機能や行政サービスを、例えば新さっぽろ、琴似、麻生などの機能を高めることで多極化させる、或いは新しくできた核と周辺都市との双方向の交流を促すまちづくりが札幌におけるコンパクトシティではないか。（為定委員） 昔建てた市営住宅はほとんど高齢者になっており、そこに何かを植え付けようとしても若い人たちは住まないで、スーパーや医療機関などが撤退している。その中で行政が人を誘導するとなると行政コストがかかるので難しい。これが札幌市の抱える大きな問題である。（内田委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 重点戦略Ⅲ（環境）2-①「持続可能な集約型都市構造（コンパクトシティ）への強化」で記載。 都市構造部会で第7章「（仮称）将来の都市空間像」の内容を検討中。 	
第4次長期総合計画、産業施策の検証	<ul style="list-style-type: none"> 以前の長期総合計画を見直すということは計画が上手く進んでいないということになるが、どこが進んでいないのか、なぜ見直す必要があるのか、という検証作業を実施すべきではないだろうか。（為定委員） また、これまでに取り組んだことや実現できなかったことなどを、もう一度整理しながら議論した方が良いのではないだろうか。何ができていて、何ができていないか、また何をすれば良いのか。これらを、札幌市の具体的な政策とともにリンクしてイメージできるような議論をしていかなければいけない。（為定委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会において第4次長期総合計画点検・検証報告として整理。 	

（札幌商工会議所からのご意見）

テーマ	札幌商工会議所からのご意見	対応の方向	想定される取組
都市の方向性の明確化	<ul style="list-style-type: none"> 都市としての方向性・将来像を明確に打ち出すべきである。また、北海道とも適切な連携と役割分担が果たされ、本市の将来に亘るビジョンとして機能することを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり戦略ビジョンにおいて、都市としての方向性・将来像を明確化。 	
世界に発信する都市像	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり戦略ビジョンにおいて、今後示すべき「都市像」は、市民向けのものというだけでなく、世界中から人材や観光客、企業や投資を呼び込むことを考え、世界に発信するものであるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5回札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会において「都市像」をあらためて議題とする予定。 	
都市空間や交通体系の都市構造を戦略的に考えていくべき	<ul style="list-style-type: none"> 経済・産業と関連付けて、都市空間や交通体系の都市構造を戦略的に考えていく必要がある。経済成長を支えるインフラや産業振興分野に重点化するなどのメリハリをつけるべきであり、併せて、民間委託を進めるとともに、規制緩和などにより民間が投資しやすい環境（容積率や高さ制限の緩和など）を整えていくべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市構造部会で第7章「（仮称）将来の都市空間像」の内容を検討中。 	

テーマ	札幌商工会議所からのご意見	対応の方向	想定される取組
インフラ整備や企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> 観光面では、電線の地中化、大通公園の連続化、都心部までの観光バス駐車場整備などや、2次産業の誘致では、丘珠空港の有効活用、高速道路により新千歳空港までへのアクセス強化、さらには東日本大震災により一極集中のリスクが顕在化した今が機能分散を訴える好機であり、企業誘致へとつなげるとともに新たな産業の確立も急がれる。スマートシティなどの戦略的なプロジェクトや国際機関の誘致など国外に視野を広げた発想も不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点戦略Ⅱ（経済）2-③「広域連携ネットワークの強化と投資環境の充実」において、道都・札幌の都心の魅力づくりや広域経済圏の主要な空港や港湾などの交通ネットワークを強化することを記載。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな都市課題に対応した都心のまちづくりを検討 道内の主要な空港、港湾等とのアクセス環境の整備 企業立地の促進
中長期的視点に立った雪対策の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 冬期間における産業経済活動を行うにあたり、雪対策は欠かすことのできない施策であるが、融雪槽・流雪槽の設置に加え、熱を有効利用するインフラ整備を促進するなど、中長期的視点に立った抜本的な雪対策の見直しも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点戦略Ⅲ（環境）1-②「次世代エネルギーシステムの開発・利用の促進」で効率的にエネルギー利用することを記載。また、総合的な雪対策については、第4章「基本目標」で記載。 	
オリジナリティの必要性	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を今一度見直し、強み・弱みを適切に評価したうえで、ビジョンが構築されるべきである。財政制約から現実路線ばかり考えるのではなく、都市間競争に打ち勝つ、夢のある野心的なビジョンやプロジェクトを提起すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> SWOT分析を実施。 	

（第2回経済・雇用部会たたき台）

（第3回経済・雇用部会事務局案）

分野	分野の柱	施策の方向性	変更点
創造性を活かした産業群の育成	域外需要を開拓する創造的な産業群の形成	食文化を活かした産業の高度化	食の 魅力 を活かした産業の高度化 魅力 ある まちづくりと観光振興の 一体的推進 超高齢社会 に対応した産業の振興 エネルギー転換 に対応した産業の振興 国際経済戦略の積極展開 創造性を活かした イノベーションの誘発 広域連携ネットワークの 強化と投資環境の充実 シティプロモート戦略の積極展開 将来を担う 創造性豊かな人材の育成・活用 市民の潜在的な力 の活用
		魅力資源を活かした産業の高度化	
		高齢化社会に対応した産業の振興	
		低炭素社会に対応した産業の振興	
		札幌型創造産業の振興	
		イノベーションの誘発	
		インキュベーション機能の強化	
	域外需要を取り込むための基盤づくり	国際経済戦略の積極展開	
		広域連携ネットワーク環境の充実	
		域外からの投資を促す環境の充実	
		シティプロモート戦略の積極展開	
	将来の札幌経済を支える人材の育成・活用	創造的なものづくりを担う人材の育成	
		女性や高齢世代の潜在的な力の活用	
		社会的インターンシップの強化	